

【速報】中国四国土を考える会 夏期研修会終了しました

2019年8月29日

中国四国土を考える会は、8月23日(金)、24日(土)に「土壌断面調査から読み解く土づくり～よう来んさった、鳥取編～」を開催しました。鳥取県稲作経営者会議の方々も数多く参加され、総勢40名余りでの夏期研修会となりました。

今回は、2017年春より行なってきた土壌断面調査「土中環境はモノリスで見て知る」シリーズの5回目。県内の2カ所で、農研機構 農業環境変動センターの前島勇治先生が、故 大倉利明先生の遺志を継いで、土壌モノリス採取とライブ解説を行ないました。

初日は、岩美町の数内孝博会長のほ場へ。今年は大豆「タマホマレ」を作付けていますが、昨年まで水稲が作付けされていた圃場で、3年前には乾田直播を行なったとのこと。作土は10cm程度でしたが、少なくとも60cmまでは細い根が伸びていることが確認されました。深さ30cm以下には地下水の上下動によってできる管状の鉄サビが多く見られ、水はけの良い圃場であることも分かりました。

調査後はホテルに場所を移して、有限会社田中農場の経営を継いで2年半が経過した、田中里志代表取締役が、令和の時代に飛躍したいという想いの詰まった事業計画を紹介しました。その後の情報交換会は深夜まで続きました。

翌日は、有限会社田中農場のネギ作付けほ場で調査しました。私都川(きさいちがわ)の河岸段丘の上であり、海拔は約70m。表層30cmの黒い土層は、30年以上繰り返されてきた有機物の投入とプラウでの耕起により、元々の灰色の土が黒く変わったのではないとのこと。1972～75年の基盤整備で造成されて以来の土づくりが反映されていることが分かりました。

今回の調査を終えて、これまでに採取したモノリスは全9本となり、「継続は力なり」を実感する研修会となりました。

なお、次回の総会・研修会は、愛媛県での開催を予定しています。

